経済産業省　SOCIETY 5.0時代のデジタル人材育成に関する検討会 第四回

日本英語検定協会
検定事業プラットフォーム化計画
ご説明資料

日本英語検定協会

2025/1/28

協会理念

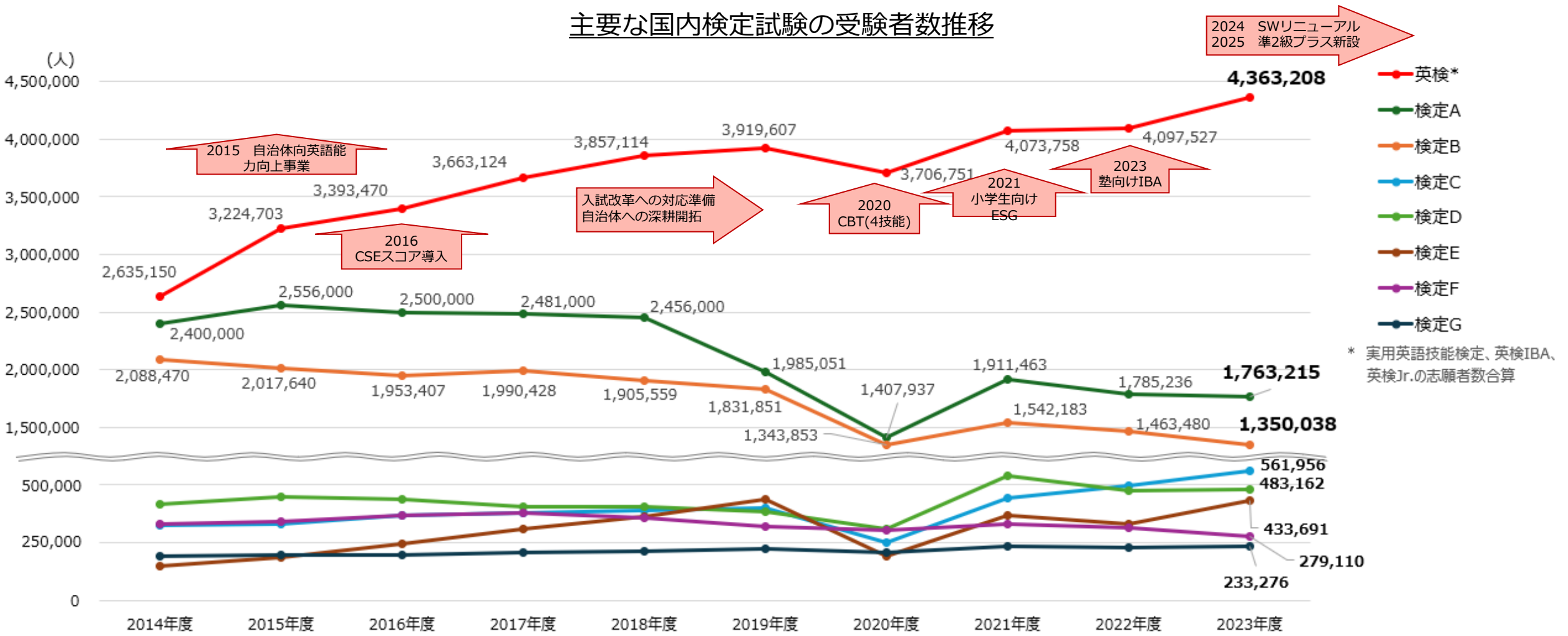
「この法人は、日常の社会生活に必要な実用英語の習得及び普及向上に資するため英語の能力を判定し、また様々な機会を通じてその能力を養成することにより生涯学習の振興に寄与することを目的とする」（定款第三条より）

検定業界のトレンド

Confidential

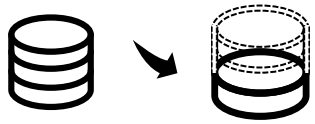
英検

国内検定業界全体では、受験者数は2020年度のコロナ禍以降持ち直したものの横ばい・減少の傾向が多く見られる



検定業界のビジネス状況

マーケット環境の変化による業績下振要因に対し、国内の検定業界では生残りをかけて各種解決策を講じるしかない

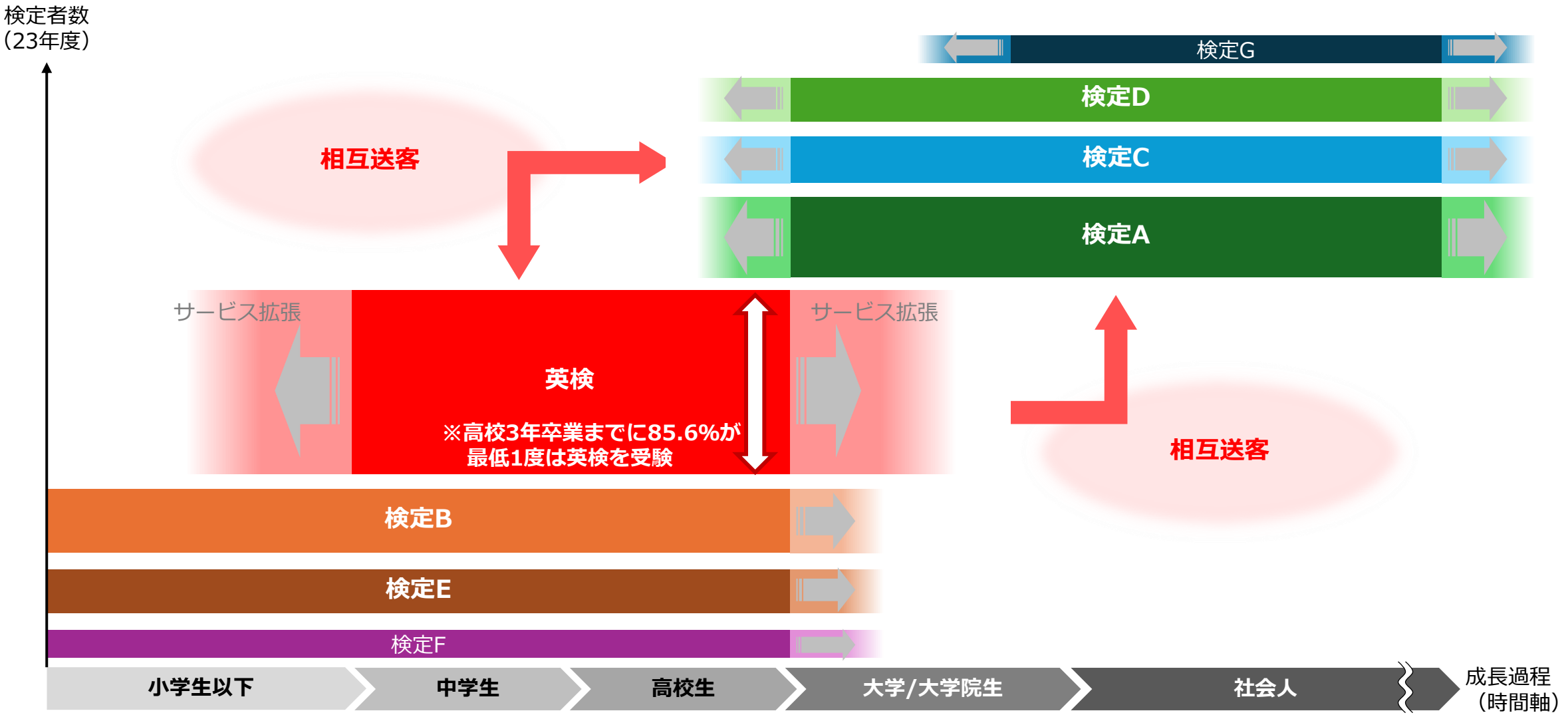
課題（例）		解決策（例）	
人口減少・少子化		**“顧客の声を聴く”体制の整備** （コンタクトセンターによるイン・アウトバウンド、プラチナ塾とのアライアンス等）	
働き盛り(子育て世帯)の可処分所得減少 （税金/保険料/電力/ガス/ガソリンの負担アップ）		**顧客LTV追求** （シェア、年齢層）	
時短、働き方改革で学習支援する時間が減少		**新検定の連続的開発・リニューアル**	
大学が余っていて勉強しなくても入れる状況に		**受験利便性の向上** （CBT、プロクタリング）	
顧客の潜在的な課題を把握できていない （なぜ勉強する子としない子がいるのか、なぜ自信がない子がいるのか）		**エコシステムの拡充** （学習支援/取得支援サービス/入試就職転職活用/単位取得/昇格基準）	
		プラットフォーム化・AI化による抜本的な生産性向上、品質向上、コストダウン	
		シェアードIT プラットフォームの活用	

検定事業LTV獲得に向けて

Confidential

英検

各社異なるメインターゲット層を有する事業者間連携による相互送客とサービス拡張によって、大きなシナジーポテンシャルを見込める



生涯学習アカウントとデジタル証明書

協会の優位性

	概要	規模	採用技術	特長
生涯学習アカウント **2023年10月～**	**生涯にわたる学習の履歴を一元管理することを目的とし、動的多要素認証、パスワードレス、シングルサインオン、親子アカウント機能等を有する**	**登録ユーザ数** **約300万人** ※高校3年卒業までに**85.6%**が**最低1度は英検を受験** **2025年1月時点**	**認証業界トップベンダーの認証基盤を活用**	**複数の有力認証サービスとの比較を行った結果、以下の優位性を持つ技術サービスを採用し生涯学習アカウントとして独自拡張開発** **①セキュリティ** • 動的多要素認証 • AIによる不正検知 • パスワードレス(漏洩リスクを排除) • ダークウェブ監視 **②拡張性** • APIによる他社利用(連携)機能 • 親子プロファイル機能 **③運用コスト** ボリュームディスカウントと弊会事業に対する特別割引で最安値で利用可能
デジタル証明書 **2024年5月～**	**学習や検定の履歴をデジタル証明書として発行し、団体や企業といった第三者に対して、検証可能な形で証明書を共有する機能を有する**	**総発行枚数** **約1,000万枚** **2025年1月時点**	**インターネット標準団体W3Cの推奨するDID/VC規格に準拠** **非ブロックチェーン**	**流動性が高く書き込みの度に費用が発生するブロックチェーン依存しない方式であるため、安価で早くデジタル証明を発行可能**

生涯学習アカウントとデジタル証明書の活用

Confidential

英検

小学生から社会人まで生涯にわたる学びの軌跡を、デジタル証明書として生涯学習アカウント上で一元的に管理・可視化
現在、大学出願手続サービスプラットフォーム複数社と連携開発中。また某国立大学との協業による “大学入試出願プラットフォーム”および “デジタル学修歴証明” の2025年度内実装に向けて検討中

個人のメリット

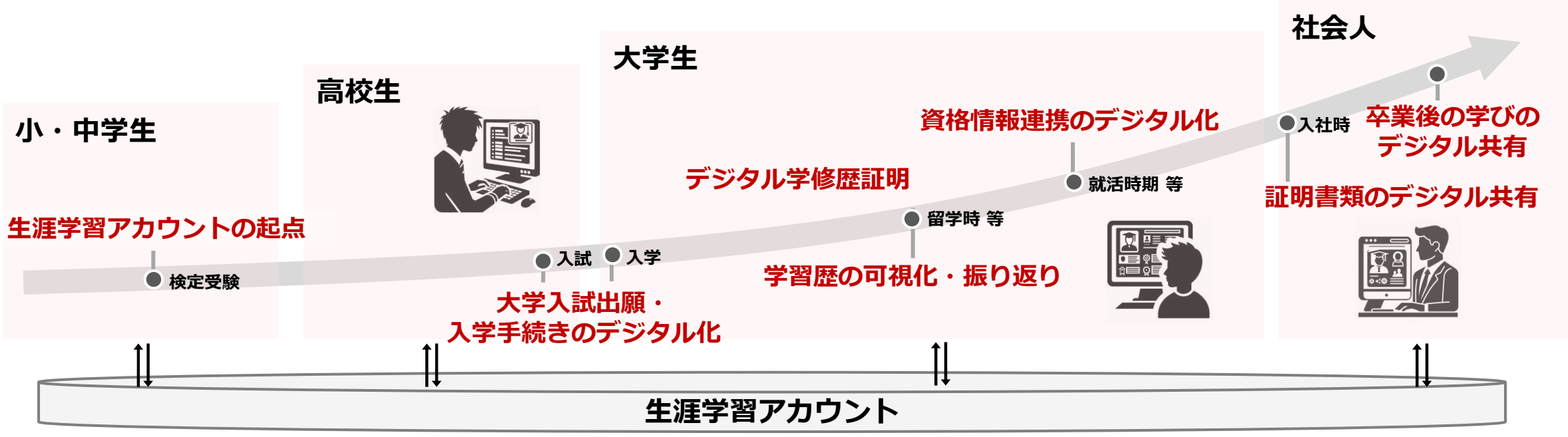
“社会で活かせる” 学びを自律的に選択

- 予見の難しい社会で活躍するために必要な学びを学生が主体的に選択
- 一元管理された学びの軌跡を、第三者にデジタル証明書として共有

団体（教育機関・企業）のメリット

高大社接続プラットフォームとして活用

- 断片的な情報だけではなく多様な学びを評価する新たな入試・採用への転換
- 個々人の目標やゴール達成に向けた学習・キャリア支援の最適化



生涯にわたる学びの軌跡をデジタル証明書として一元管理・可視化